

[さっぽろしN30いせきしゅつどひん]

札幌市N30遺跡出土品

縄文時代後期から晩期の生活跡

N30遺跡は、西区二十四軒4条1丁目他にある。平成7(1995)～8(1996)年に北海道職業能力開発促進センターの建設に伴い、その一部を発掘調査した結果、縄文時代後期から晩期(約3700～2300年前)までの生活跡と遺物群が大量に発見された。生活跡としては、竪穴住居3軒、土坑16カ所、たき火跡等178カ所、柱跡2,173カ所が見つかり、遺物は総数69,147点出土した。

豊富で重要な資料群

指定された出土品は、報告書に掲載された資料群で、内訳は復元土器367点、土器片285点、石器645点、石製品・土製品等116点の総計1,413点である。市内の縄文時代後期から晩期にかけての生活状況や埋葬方法などを知るうえで重要な資料として指定されたものである。

板状土偶など特徴的な出土品

生活跡の中で、縄文時代晩期末の第1号土坑は、径122cm、深さ54cmの大型の墓で、底面からは2列に並んでサメの歯が20点、土器片1点、石器4点(ナイフ状石器・石鏃・削器)が出土し、一部に赤色顔料が散布されていた。また、上部からは高さ24cmと大形の板状土偶が1点発見されたが、顔には仮面をつけ、胴体には当時の土器に特徴的な文様「工字文」が描かれていた。本土偶の出土状況や時期などは、重要文化財になっている千歳市ママチ遺跡の土製仮面と類似している。

なお、土坑の周辺からは琥珀製の玉類も大量に出土している。



縄文時代後期・晩期の土器



土偶

● 遺跡の年代: 縄文時代後期～晩期

(約3700～2300年前)

● 指定年月日: 平成16(2004)年8月25日

● 所在地: 札幌市中央区南22条西13丁目1-1
札幌市埋蔵文化財センター

● お問い合わせ: 札幌市埋蔵文化財センター ☎ 512-5430

● 観覧形態: 一部常設展示(レプリカを含む)

● 観覧時間: 8時45分～17時15分

● 休館日: 祝日、振替休日、

年末年始(12月29日～1月3日)

(ただし、5月3日～5日、11月3日は開館)

● 観覧料: 無料

● アクセス: 市電「中央図書館前」

じょうてつバス「南21条西11丁目」

